

【運輸総合研究所 × みなと総合研究財団】

安全・安心なクルーズの実現 セミナー

横浜市
港湾局

「安全・安心なクルーズ港の実現のための取組」

2022年12月21日
横浜市港湾局客船事業推進課長
高橋 哲

1 横浜港のクルーズの状況

- (1) クルーズ寄港実績
- (2) クルーズ発着港としての横浜港
- (3) 横浜港の客船ターミナル
- (4) クルーズ船一隻あたりの経済波及効果

2 横浜港における安全・安心な客船受入

- (1) 客船「ダイヤモンド・プリンセス」への対応
- (2) 客船「ダイヤモンド・プリンセス」の寄港により生じた課題
- (3) 国監修のガイドラインと政府通知
- (4) 横浜港における受入協議会
- (5) 横浜港における感染症対策
- (6) 国際クルーズの再開

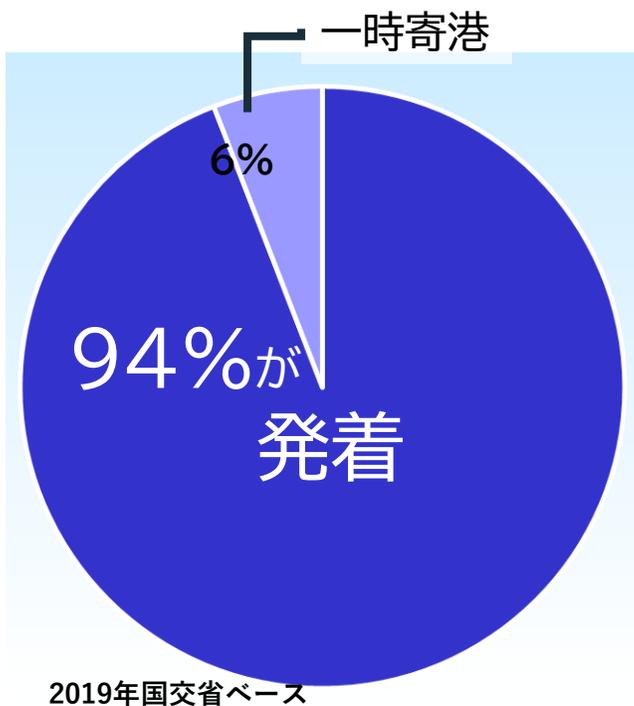
1 横浜港のクルーズの状況

(1)クルーズ寄港実績

過去最多

※2022年は9月末時点

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年※
外国客船	37	40	57	70	87	3	0	0
日本客船	97	87	121	98	101	44	72	47
計	134	127	178	168	188	47	72	47



発着

乗船客の乗船・下船があり、港は、クルーズの出発・終着港となる



一時寄港

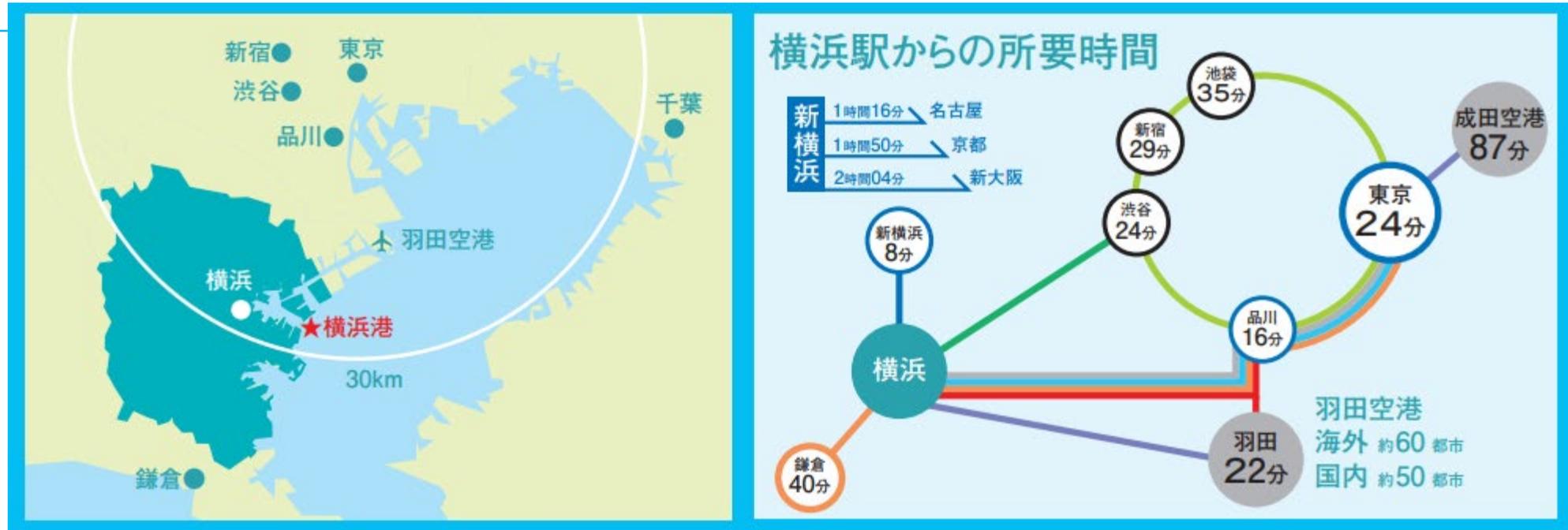
クルーズ航程の途中に、観光目的で一時的に寄港すること。基本新しい乗船や下船はない



1 横浜港のクルーズの状況

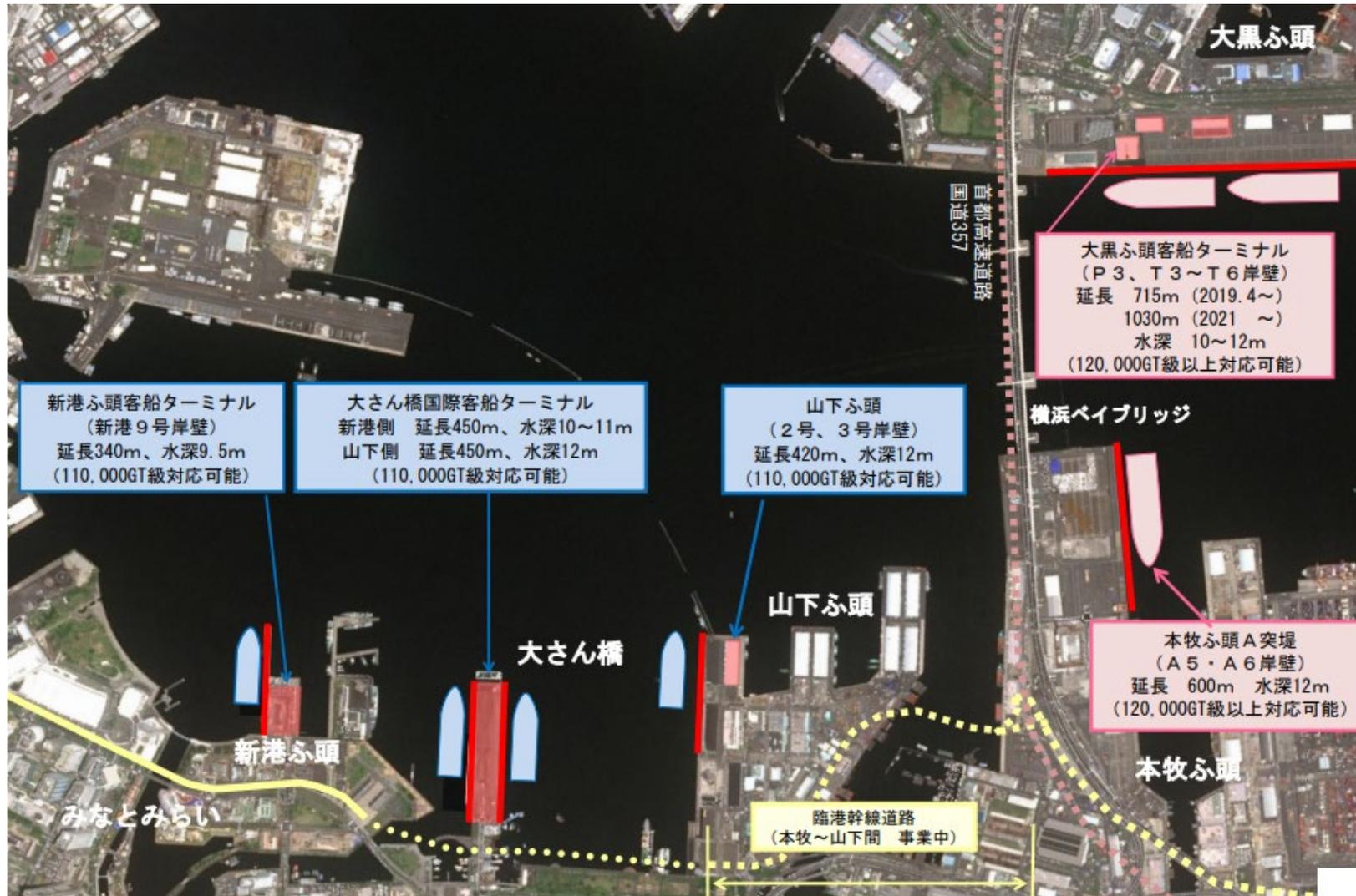
(2)クルーズ発着港としての横浜港

- 空港からのアクセスの良さ（羽田空港から約20分、成田空港から約90分）
- 豊富な客船受入実績に基づく安定的なオペレーション
- 港周辺の豊富な観光資源
- 周辺観光地へのアクセスの良さ
（東京都心、鎌倉まで約40分、富士・箱根まで約90分）



1 横浜港のクルーズの状況

(3) 横浜港の客船ターミナル



■ 2002年12月供用開始
大さん橋国際客船ターミナル

■ 2019年4月供用開始
大黒ふ頭客船ターミナル

■ 2019年10月供用開始
新港ふ頭客船ターミナル

➢ 3つのターミナルに加え、山下ふ頭、本牧ふ頭を活用することで、**7隻同時着岸**が可能

1 横浜港のクルーズの状況

横浜港大さん橋国際客船ターミナル

Osanbashi Yokohama International Passenger Terminal

LONG LIFE DESIGN



横浜港大さん橋国際客船ターミナルに着岸するオーロラとぱしふいっくびいなす
Aurora and Pacific Venus dock at Osanbashi Yokohama International Passenger Terminal 2007 (平成19)年撮影

1894 (明治27)年に鉄棧橋として供用して以来、横浜港の主力客船受入れ施設です。1964 (昭和39)年に、棧橋を拡張し、日本初の客船ターミナルが完成しました。

2002 (平成14)年には、国際コンペで選ばれた曲面を多用するデザインと柱のない大空間が特徴的なターミナルにリニューアルし、2021 (令和3)年には、「グッドデザイン・ロングライフデザイン賞」を受賞しています。

横浜港大さん橋国際客船ターミナルのデータ

着岸第1船	クルーズ客船クリスタル・ハーモニー (48,621総トン)
建物	鉄骨構造 地下1階・地上2階 長さ約430m、幅約70m、高さ15m
係船能力	山下側岸壁：長さ450m、水深12m 新港側岸壁：長さ450m、水深10m～11m

1 横浜港のクルーズの状況

新港ふ頭客船ターミナル

Shinko Pier Cruise Terminal



2019(令和元)年10月にオープンし、客船ターミナルと商業施設・ホテルが一体となった日本初の複合施設「横浜ハンマーヘッド」として、賑わっています。名前の由来となったハンマーヘッドクレーンは、全国で現存するのは、長崎・佐世保・横浜の3基のみで、2018(平成30)年には、土木学会選奨土木遺産に認定されています。

新港ふ頭客船ターミナルのデータ

着岸第1船	クルーズ客船ダイヤモンド・プリンセス(115,875総トン)
建物	鉄骨構造 地上5階 長さ約126m、幅約72m、高さ20m 延べ床面積 約30,000㎡
係船能力	みなとみらい側岸壁：長さ340m、水深9.5m

1 横浜港のクルーズの状況

大黒ふ頭客船ターミナル

Daikoku Pier Cruise Terminal



2019(平成31)年4月に客船ターミナルが供用開始し、横浜ベイブリッジの桁下高さ55mを通過できない超大型のクルーズ客船を受け入れています。改修した隣接上屋と合わせて、超大型客船2隻同時のオペレーションが可能です。羽田空港とのアクセスを活かし、飛行機と組合わせたフライ&クルーズやクルーズ中に自家用車をお預かりするドライブ&クルーズといったサービスも好評です。

大黒ふ頭客船ターミナルのデータ

着岸第1船 クルーズ客船クイーン・エリザベス(90,900総トン)

建物 鉄骨構造(屋根は膜を使用)

地上1階 CIQ棟2棟(長さ約50m、幅約30m、高さ7.4m)

待合棟1棟(長さ約20m、幅約70m、高さ10.7m)

係船能力 P3岸壁:長さ290m、水深12m T3~T6岸壁:長さ740m、水深12m

1 横浜港のクルーズの状況

(4)クルーズ船一隻あたりの経済波及効果

クルーズプラン(例)	世界一周クルーズ	国内クルーズ	アジアクルーズ
船舶の大きさ	50,000総トン	50,000総トン	110,000総トン
経済波及効果	約3億2,500万円	約8,500万円	約1億7,500万円

※横浜港の経済効果(2017年)調査結果を基に推計

● クルーズ船が寄港するたびに、入出港に伴う諸経費をはじめ、給油・給水や食材、アメニティグッズ等の各種船用品の需要が発生するとともに、乗客の土産物や観光客の支出なども加わり、地方経済に対して様々な効果をもたらす。

2 横浜港における安全・安心な客船受入

(1)客船「ダイヤモンド・プリンセス」への対応

2020(令和2)年1月20日、横浜港を出港したダイヤモンド・プリンセス号は、香港、ベトナム、台湾などに寄港しクルーズを行っていました。1月25日に香港で下船した乗客が、新型コロナウイルス(COVID-19)に感染していることが2月2日未明に確認されました。旅客・乗組員数は3,711人、そのうち1,281人が日本人であり、人道的な観点から横浜港で受け入れることになりました。

2月3日夜、横浜港に入港し、大黒ふ頭沖で錨地検疫を行いました。船内での感染拡大が見られたため、2月6日に大黒ふ頭へ着岸しました。

厚生労働省、国土交通省、防衛省を始め、県、市、船会社などが協力し、感染者への対応にあたりました。2月19日に下船を開始し、3月1日には旅客・乗組員全員の下船が完了しました。その後、船内の消毒作業等が完了したため、3月25日に大黒ふ頭を離岸しました。



2020(令和2)年 大黒ふ頭での対応
撮影:横浜市港湾局

2 横浜港における安全・安心な客船受入

(1)客船「ダイヤモンド・プリンセス」への対応

DP号の動き

2020年

1月	20日	横浜港出港	
2月	3日	横浜港入港	検疫錨地、予定では翌4日入港
	5日	隔離決定	日本政府が乗客の14日間客室待機を決定
	6日	大黒ふ頭着岸	
	27日	乗員の下船開始	(3月1日まで計235名)
3月	1日	乗員、乗客3,711名 全員の下船完了	
	6日	船内消毒の開始、廃棄物の処理等を継続して支援	
	25日	船内消毒終了 検疫済証が発効され、 大黒ふ頭を離岸	

- ◆乗客乗員数：3711人（乗客：2666人（うち日本人1281人）、乗員：1045人）
- ◆感染者：696人**19%**（乗客552人**21%**、乗員144人**14%**）

2 横浜港における安全・安心な客船受入

(2)客船「ダイヤモンド・プリンセス」の寄港により生じた課題

<2020年2月3日 横浜港 入港>

- 1 DP号や支援船の係留場所、支援拠点の提供
- 2 医療機関等への搬送等の協力
- 3 廃棄物・排水等の処理
- 4 下船後の交通手段の確保

反映

国監修のガイドライン

横浜市の求める感染症対策

2 横浜港における安全・安心な客船受入

(3) 国監修のガイドラインと政府通知

■ 国監修のガイドライン【2020年9月初版・・・2022年7月第7版】

- 保健衛生当局と港湾管理者との情報共有体制の整備
- 3密回避等の感染防止策
- 非感染者の帰宅支援
- 感染発生時のクルーズ運航中止【2022年7月第7版で運航中止基準を定める】

■ 政府通知【2020年9月】

- 協議会の設置・受入合意 → 【2020年10月横浜港における協議会設置】
- 感染発生時の受入体制整備
- 想定を超える事態への備え

港と船会社の詳細なルールが必要

2 横浜港における安全・安心な客船受入

(4) 横浜港における受入協議会

● 国からの要請に基づき、クルーズ船の受入判断を行うために、衛生主管部局、港湾関係機関等からなる「新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた横浜港におけるクルーズの受入に関する協議会」を設置

● クルーズ客船の受入の合意や想定を超える事態への備え等について協議

組織	職
横浜市	港湾局
	健康福祉局
	中区役所
	医療局
	災害医療アドバイザー
	総務局
	消防局
横浜市立大学	市大附属病院
神奈川県	くらし安全防災局
	健康医療局
国土交通省	関東地方整備局
	関東運輸局
財務省	横浜税関
出入国在留管理庁	東京出入国在留管理局横浜支局
厚生労働省	横浜検疫所

2 横浜港における安全・安心な客船受入

(5) 横浜港における感染症対策

他港や船会社と調整のうえ、ルールを設定

横浜港が船会社に求める感染症対策

- 全乗客の乗船前のPCR検査
- 船内におけるPCR検査体制の配備
- 万が一、船内で感染が発生した場合の宿泊施設、移動手段の手配
- 地元の保健衛生部局との事前協議

船会社から感染症対応計画を市に提出

2 横浜港における安全・安心な客船受入

(5) 横浜港における感染症対策

- 国監修の業界ガイドラインのもと、船会社とともに「**トライアル運航**」や「**感染者発生時の対応訓練**」を実施し、感染症対策の実効性や安全性の検証
- 国、県及び市の衛生主管部局、関係機関を委員とする「**新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた横浜港におけるクルーズ受入に関する協議会**」で合意が得られたことをうけ、**2020年11月から国内クルーズの受入を再開**



2 横浜港における安全・安心な客船受入

(5) 横浜港における感染症対策

2020年度

9月	国内クルーズ運航に係る業界ガイドライン公表 (JOPA)
10月	トライアルクルーズ及び下船訓練 (飛鳥Ⅱ、にっぽん丸) トライアル等を踏まえた運航体制確認、 営業運航再開の合意 (3泊4日程度)
11月	営業運航開始 (横浜発着) : 飛鳥Ⅱ (11月2日)、にっぽん丸 (11月7日)、ぱしふいつくびいなす (12月21日)

2021年度

4月	国内クルーズの長期化に向けた試行的な条件整理 (5泊~9泊のクルーズを対象) 5泊以上の営業運航開始 : 飛鳥Ⅱ (4月29日~)、にっぽん丸 (4月29日~)
5月	船内感染事案発生
7月	乗船当日のPCR検査 等を含むトライアルクルーズの実施 (飛鳥Ⅱ、にっぽん丸)
11月	国内クルーズの受入条件の見直し (泊数上限の廃止)

2022年度

7月	JOPAガイドライン第7版で「 運航停止基準 」を適用
----	------------------------------------

2 横浜港における安全・安心な客船受入

(6) 国際クルーズの再開

■ 国監修のガイドライン【2022年11月】

- ・国際クルーズ運航のための感染拡大予防ガイドライン(JICC第1版)
- ・外航クルーズ船事業者の新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン(JOPA第8版)

■ 受入協議会での協議【2022年12月】

→乗船前検査や感染者が発生した際の対応等について協議



■ 2022年12月15日

にっぽん丸「モーリシャスプレシャスクルーズ」出港

→日本における約3年ぶりの外航クルーズの再開



■ 来春以降、外国クルーズ船による外航クルーズが再開見込み

2 横浜港における安全・安心な客船受入

(6) 国際クルーズの再開

● 国際クルーズ受入に係る基本的な考え方

(※ 日本船籍の国際クルーズも含む)

● 乗船前検査

オミクロン株の重症化しにくい特性や検査場所の確保が困難なことから、当日乗船前PCR検査に替えて、乗船前**72時間以内検査**(PCR検査または抗原定性検査)による陰性証明等に対応

● 感染者が発生した場合の対応

感染者等の**船内隔離を基本**とし、最終下船時点で療養期間が残っている乗客は検疫所確保施設等で隔離・療養を継続。陸上での隔離・療養が困難な場合は、船内隔離を継続

ご清聴いただき、誠にありがとうございました。

ご質問、ご相談がございましたら
ぜひ下記までご連絡ください。

<お問い合わせ先>

横浜市港湾局みなと賑わい振興部客船事業推進課

☎:045-671-7272

✉:kw-kyakusen@city.yokohama.jp